

令和 7 年度第 1 回地域連携推進会議 議事録

1. 開催状況

事業所名	厚真リハビリセンター			
事業種別	障害者支援施設			
開催日時	令和 8 年 3 月 18 日 水曜日 10:30 ~ 12:00			
開催場所	勇払郡厚真町新町116-3 厚真リハビリセンター 2階 作業訓練室			
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(欠席理由等)
	利用者	1 名	名	利用者代表
	利用者家族	1 名	名	家族会
	地域の関係者	1 名	名	新町地区民生委員
	福祉に知見のある人	1 名	名	合同会社つむぎ
	経営に知見のある人	名	1 名	厚真町商工会青年部
	市町村担当者等		1	厚真町福祉グループ
事務局(施設職員)	2 名	名	管理者、サービス管理責任者	

2. 議題内容

<p>1. 開会 委嘱状交付</p> <p>2. 施設長挨拶</p> <p>3. 出席者紹介 (施設長) 今回の議事進行は事務局が行うことで合議を得た。</p> <p>4. 地域連携推進会議の設置趣旨及び運営規程の説明 (施設長) 資料をもとに説明した。</p> <p>5. 議事</p> <p>[1] 事業所における活動状況の報告 (施設長) 利用者の日常生活の様子などについて、福祉サービスの根拠となる法律、利用方法を解説した上で、当施設の提供するサービス種別とその内容を資料をもとに説明した。</p> <p>[2] 運営状況について (サービス管理責任者) 利用者の区分分布、入退所状況、定員充足率およびBCP、職員研修の実施状況を資料参照し説明。</p> <p>[3] 権利擁護、安全管理に関する報告 (サービス管理責任者) 権利擁護・虐待防止の取り組みについて委員会活動を説明。 事故防止、インシデント、ヒヤリハット事例の共有と再発防止策について委員会活動を説明。</p> <p>[4] 地域との連携及び今後の予定について (サービス管理責任者) 来年度以降は積極的な地域参加を目指しており、社会福祉協議会と連携して慰問ボランティアや地域住民と利用者のサークル活動などの計画、および利用者が地域の一員として施設外と関わる活動機会を増やす方向性を報告。 苦情受け付け体制について説明。今年度の苦情受付は0件であったことを報告。</p> <p>[5] 地域連携推進会議からの要望および助言 次項に記載。</p> <p>6. 施設内見学</p> <p>7. その他 (施設長) 令和8年度は議事内容を次年度事業計画に反映出来るよう、11月開催を予定している。</p> <p>8. 閉会</p>
--

3. 構成員からの質問、要望、感想等

(福祉に知見のある人)

障害福祉サービスの種別は、高齢者福祉サービス以上に複雑な制度の上に成り立っていることがわかった。身体、知的、精神障害それぞれ、または重複する障害を持つ利用者を支援するためには、幅広い知識と対応力が必要なのだと思う。

(利用者家族)

利用者が散歩で歩いている姿を見た地域の人から「こないだ、元気に歩いてたよ」と声をかけて貰って、すごく嬉しかった。いきいきサポートサロンやグループホームの高齢者と一緒にトランプしたりなど、交流の場があっても良いと思う。

(福祉に知見のある人)

利用者の方に聞きたいのですが、この施設に入所されて安心したことは何ですか？

(利用者)

食生活が安定していることと、相談できる人がいるってことです。グループホームに居た時よりも、「自分を出せる」というのかな。入所前は薬を飲み忘れて、健康管理が出来なかった。生活のことを色々自分でするのも大変だったし、1ヶ月の家計のやりくりも難しかった。今は不安なく自分の望む生活が出来ようになった。

(福祉に知見のある人)

安心して自分らしく暮らせるって、素晴らしいことです。在宅サービスのヒントとして、利用者がグループホームの生活で難しかったところを、地域福祉の我々が知るの大事だと感じた。とっても勉強になります。ありがとうございます。

(利用者家族)

親や家族が元気でいるうちにはお願いや要望を出せるが、それを利用者自身が意思表示出来ない場合、家族がみられなくなった時にどうなってしまうんだろうという不安がある。

(施設長)

現状では表情を見て楽しみある表情を浮かべてるのであれば、そのことが楽しみがあるということで判断している。日々の関わりの中で散歩時の表情と買い物に行く表情、食べてる時の表情など違いが見えてくるので、反応を見ながら、生活歴などの情報も頼りに代理判断し、個別支援計画書などに落とし込み支援している。本人の意向に沿うものになるように、我々支援者は常日頃、利用者としてしっかり関わって理解を深めなければならないと思います。

(利用者家族)

家族が対応出来ない状況になっても、職員が支えてくれるのであれば安心しました。

(地域住民)

支援者には非常に高いスキルが求められるのですね。

(サービス管理責任者)

我々は利用者の人生の一端を担い支える仕事なので「ただ生きていけばいい、暮らしていけばいい」ということではなく、「充実した暮らしを送って頂くためにはどうしたらいいのか？利用者のことを思いを知り、そのために我々が何をできるのか？何をしてあげられるのか？」を常々考えていくことを、職員に教育していきたいと思っています。